

科目名	異文化間 コミュニケーション論特講	担当者	ニシダ 西田 ツカサ 司	期間	通年	単位数	4
-----	----------------------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>1914年に始まった学会は、現在NCAとなり、40以上の分科会を有する最大の学会に成長しました。異文化間コミュニケーション分科会は1972年に発足し、40数年の時間の中で、17の理論が構築され、概念そして方法論が明示されました。</p> <p>本講座の目的は、異文化間コミュニケーションを理解するのを主とし、インターパーソナルとノンパーソナルの領域を副とします。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、挑戦力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 グローバル社会において文化背景の異なる人と共生する際に必要な知識とコミュニケーションの能力を身につけることです。具体的には、動機、知識、技能を習得することです。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 学修者はコミュニケーションの3つの両機の知識と能力を習得することにより、認知能力とコミュニケーション能力を身につけます。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15時間 レポート執筆：15時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15時間</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 教材には知識や認知能力及びコミュニケーション能力を測定する尺度が載っているため、それらを予め行い、学修者自身の数値を算出してください。</p> <p>【学修方略 (LS)】 レポートを提出することと、その考察の部分に、測定した知識や認知能力の数値を入れてください。</p>		
スケジュール	<p>提出期限は、manaba_folio ならびに学事暦記載のとおりです。</p> <p>レポートについては、添削指導を行います。つまり1回目の草稿を受け取り、1週間くらいでコメントをつけ戻します。コメントを参考に、2回目の草稿を提出してください。</p> <p>レポートの提出には十分に時間的な余裕をもって臨んでください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの内容（構成、論旨、引用文献、独創性）60% 提出状況（期限の順守）20%
	平常評価	20%	草稿の改善度（草稿への加筆、修正）20%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・課題については、教科書や参考書をよく読み、よりよいレポートを作成してください。 ・考察については、知識と体験をもとに、要約に現れた専門用語を用いて、よりよいレポートを作成してください。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 西田司・小川直人・西田順子 教材名： 『グローバル社会のヒューマンコミュニケーション』（八朔社，2017年） ISBN:978-4-86014-083-0 2,000円＋税
	本書は、1つの理論をベースに、グローバル社会における、異なる地域で生まれ育った人とのコミュニケーションは、その人の考え方や行動の仕方を理解しなければ深まっていきません。3つのことを明らかにしています。1. コミュニケーションを理解する方法、2. 相手の文化的な特徴を知ること、3. 文化背景の異なる人との効果的なコミュニケーション。
参考図書	Gudykunst, W. B. (2004) (4 th ed.). <i>Bridging Differences: Effective Intergroup Communication</i> . Sage. ISBN: 0-7619-2936-3
履修上のポイント	教科書と参考書には、個人の文化的及びコミュニケーションの特徴を測定することでできる尺度が掲載されています。まず、これらの尺度を記入し、自分の数値をえることから始め、テーマを理解して行ってください。
レポート課題 1	教材を読み、要約すること、次に、その理解をもとに1つのテーマについて考察してください。 第1部（第1章、第2章、第3章、第4章）を2,000字で要約し、1つの章のテーマについて1,000字で考察してください。 留意点： 考察では、要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。
レポート課題 2	第3部（第7章、第8章、第9章、第10章）を2,000字で要約し、1つの章のテーマについて1,000字で考察してください。 留意点： 考察では、要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： リッチモンド, V.P. & マクロスキー, J.C. 教材名： 『非言語行動の倫理学』（北大路書房，2001年） ISBN: 978-4-76-282220-9 3,200円＋税
	本書は、メッセージを形成する非言語のサイン全体をテーマとしていて、コミュニケーションモデルを理解するには、最適の専門書です。概念、ジェスチャー、感情表現、対人距離、接触、接近性のテーマを含め、基本的領域をカバーし、その後の章は、前半基礎概念を用い、実践的なコミュニケーションの場をテーマにしています。
参考図書	大坊邦夫『しぐさのコミュニケーション』（サイエンス社，1998年） ISBN:978-4-78-190888-5 1,500円＋税
履修上のポイント	本書は、アメリカの非言語コミュニケーション研究の集大成というべき書です。1970年代以降の研究結果が網羅されています。 各章には、用語集もつけられているので、基礎概念を理解し、要約の際に役立ててください。
レポート課題 1	第2章～第5章、第7章～第9章の中から3つの章を選び、3,000字で要約し、さらに、その中から、1つの章（あるいはテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000字で考察してください。 留意点： 考察では、要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。
レポート課題 2	第10章～第13章の中から2つの章を選び、2,000字で要約し、さらに、その中から、1つの章（あるいはテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000字で考察してください。 留意点： 考察では、要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。